

発寒ひかり
保育園だより

2021年
9月号

巻頭言

3月に卒園したRくんは、絵を描くことが大好きで、くりファミリーの子どもたち、とりわけT君（5歳児）に大きな影響を与えました。T君の描く絵はみんなを惹きつける力があり、「わあ！すごい！じょうずだね」とみんながキラキラした表情でT君を見つめます。その様子は、まるで1年前のR君とそっくりです。身近に憧れの存在がいることで、一緒に過ごす子どもたちに、とても大きな影響があると強く感じさせられました。

先日、4歳児のS君が積み木で大作を作りました。そこへ、1歳児が近づき、触って壊してしまいました。今まで、自分の作った物を壊される度に大泣きし、怒っていたS君ですが、その日は違いました。穏やかな表情で「いっしょにあそびたかったんだよね」「もういつかいつくればいいからだいいじょうぶだよ」と、その子の気持ちに寄り添い、優しい言葉をかけていたのです。そして、積み木を渡し、作り方を教えながら一緒に遊んでいました。その姿は、卒園したお兄さん、お姉さんたちの小さい子への関わりと同じでした。保育園という大きな家に住む、本当の家族・兄弟のような関係の中で、遊びや関わり方が伝承され、それがS君の成長に繋がったのだと思います。

T君のように「大きい子への憧れ」や、S君のように「異年齢で過ごす日々での経験」が、それぞれの成長へと繋がります。この先の子どもたちへも伝承されていくことでしよう。

これからも0～5歳の異年齢保育を深めつつ、その中でみられる子ども同士の間を温まる関わりを見守り続けたいと思います。

くりファミリー・りす組担任 佐々木 礼香